

大正期の行司番付再訪（資料編）

根 間 弘 海*

1. 目的¹

大正期の行司番付は傘型で、行司の序列は明確だが、階級の見分けが容易でないことがある。階級がわからなければ、房色もわからない。階級と房色は一致するからである。本稿では、傘型記載の番付を現在の横列記載にし、階級を表す房色を明記することである。

明治43年5月に房色は確立し、紫房は三種になった。それまであった准紫房が無くなり、総紫房、(真)紫白房、半々紫白房になった。半々紫白房は「紫白房」と見做され、実質的には総紫房と紫白房の二種しかないかのように扱われている。しかし、実際には規定上の「紫白房」には(真)紫白と半々紫白の二種があった。私は以前、紫房にこの二種しか認めていなかったもので、紫白房の識別で混乱があった。本稿では、紫房に三種あったことを認め、より正確な房色を提示してある。

朱房にも草履を許された行司とそうでない行司がいた。本稿では、その区別を明確にしてある。文献では、多くの場合、朱房行司を「三役」としているが、それは必ずしも正しくない。草履を履いた朱房行司は確かに三役だが、そうでない行司は「幕内」である。したがって、幕内には草履を履かない朱房行司と紅白房行司がいる。この区別を明確にしないと、朱房

*専修大学名誉教授

行司の扱いで混乱が生じる。本稿では、草履を履いた三役行司を「朱・草履」とし、草履を履かない幕内行司を「朱・足袋」と表示してある。紅白房の行司は単に「紅白」としてある。

大正期には、17代木村庄之助が差し違いの責任を取り、場所途中に辞職している。准立行司だった木村誠道は11代式守伊之助の死亡後、すんなり12代式守伊之助を襲名していない。誠道の名で、第二席の立行司を務めている。一場所後に、12代式守伊之助を襲名している。12代式守伊之助は17代木村庄之助が辞職した後、本来なら18代木村庄之助を襲名するのに、高齢を理由にその襲名を固辞している。木村誠道は「誠道」の名で第二席を務めていたとき、房色は(真)紫白だったのだろうか、それとも半々紫白だったのだろうか。本稿では、(真)紫白房だったとみなしている²。

17代木村庄之助が場所中に、また12代式守伊之助が場所後にそれぞれ辞職したために、翌場所（つまり大正11年春場所）、第三席の木村朝之助が18代木村庄之助を、第四席の5代式守与太夫（前名・式守錦之助）が13代式守伊之助をそれぞれ襲名した。その襲名により、もちろん、房色も変わった。木村朝之助は半々紫白から総紫房になった。紫白房は使用していない。第四席の式守与太夫は、朝之助が失策のため、場所中に臨時の紫房を許されている。その紫房はどの変種だったのだろうか。紫白房には違いないが、どの変種だったのだろうか³。本稿では、それは半々紫白房だったに違いないと推測している。第三席の朝之助が半々紫白房だったからである。上位の半々紫白房を飛び越えて、(真)紫白房を許されるのは不自然である。与太夫（5代）は翌場所（つまり大正11年春場所）、伊之助（13代）を襲名し、(真)紫白房を許されている。

大正14年春場所前に、14代式守伊之助が病死している。14代式守伊之助は12月に急死しているが、番付では式守伊之助として記載されている。いわゆる「死跡」である。「位牌行司」と呼ぶこともある。その代わりをしたのが、6代式守与太夫（のちの20代木村庄之助、松翁）である。この与

太夫は春場所直前までは朱房・草履行司だった。

6代式守与太夫は春場所、どの房色を使用したのだろうか。つまり、朱房だったのだろうか、それとも紫白房だったのだろうか。番付上は、まだ15代式守伊之助になっていない。しかも、その春場所まで、准立行司でもなかった。つまり、半々紫白房を使用していないのである。そういう状況であったが、本稿では、6代与太夫は（真）紫白房を許されていたと判断している。事実上、第二席の立行司となっていたからである。6代与太夫自身も春場所、式守伊之助を襲名したと雑誌記事等で語っている⁴。6代与太夫は、翌場所（5月）番付で15代式守伊之助を襲名している。それは番付上の記載であり、春場所からすでに15代式守伊之助としての地位は承認されていたのである。

草履を履いた「三役」はいつまで続いていたかという問題がある。昭和2年春には、三役行司は朱房だが、草履を履いていない。朱房行司はすべて三役となっている。そうなったのは大正末期だったのだろうか、それとも昭和2年春場所だったのだろうか。今のところ、明確な証拠がない。しかし、本稿では昭和2年春場所に始まったと推測している。第三席の4代式守錦太夫（のちの7代与太夫、16代伊之助）が大正15年夏場所、番付最上段に記載され、しかも草履を履いているからである。『春場所相撲号』（昭和2年1月）の口絵に4代錦太夫が載っている写真があり、草履を履いているらしいのである。足元は不鮮明だが、草履のためにやや膨らんでいるように見える。もし草履を履いていたならば、草履を履かない三役行司は間違いなく昭和2年春場所から始まったことになる。

なお、本稿と内容がほとんど同じ論考は以前にも拙著で扱ったことがある。

- 『大相撲行司の軍配房と土俵』（2012）の第8章「大正時代の番付と房の色」（pp. 231-66）

そこでは、傘型記載の番付をそのままにし、房色を提示してある。扱う内容が同じであることから、参照した文献もほとんど同じである。そのことをお断りしておく。以前の論考には分析のミスが散見されるが、それを一つ一つ本稿では指摘していない。紫房や朱房の違いはその房色の細分化によるものであるが、階級の見分けが間違っていることもある。本稿は以前の論考と照合しながら読むと、違いがおのずとわかる。

房色の使用開始について一言触れておきたい。基本的には、地位が変われば、房色も変わる。地位と房色は一致するからである。房色が場所中に変わった場合、その免許が届いた日から使用する。が、番付では、それは反映されない。本稿では、階級は番付に反映されることから、房の変更は翌場所で反映される。また、場所前の変更であっても、番付に反映されないこともある。免許が届く日が明らかでないこともある。そのような意味で、房色の変更と番付の階級は必ずしも一致しないことがある。昇格が不定期の場合、房色の使用が一場所か二場所違うのはそのためである。

新しい房色の使用については、新聞記事を参考にしているが、ときには場所の何日目かを厳密に調べていない。漠然と「場所中」と捉えていることがしばしばである。厳密な使用開始日に関心があれば、当時の新聞を丹念に調べることをお勧めしたい。

行司の中には新しい房色が許された明確な「日」が確定できず、「本場所」だけが記されていることがある。そういう場合、本稿では場所初日から使用したと捉えている。もちろん、前後の行司の房色は常に考慮している。

大正期の星取表は明治期の星取表と違って、青白房と黒房の境を知る手掛かりにはならない。大正末期に近づくにつれて、朱房・足袋行司の最下位が記載される傾向があるが、中期までは紅白房の行司であったりすることもある。たとえば、大正2年1月から大正7年1月までは、紅白房の留吉や鶴之助が左端に記載されている⁵。大正7年5月以降は、朱房の最下

位行司が左端に記載されている。大正期の星取表と明治期の星取表の大きな違いは、最下段の左端に記載する行司の房色が異なることである⁶。

昭和2年から34年までの番付も傘型記載だが、それを横列記載にしたものが拙著『大相撲行司の格付けと役相撲の並び方』（2023）の第6章「傘型表記と横列表記（資料編）」でも扱っている。

1. 階級と房色

本稿は大正2年春場所から15年までの行司番付や房色について調べるが、参考までに明治45年夏場所の行司番付も提示しておく。時代は変わっても、行司の人事はいつもと変わらないからである。前場所の行司番付が人事の基本となる。

○ 明治45年夏場所

〈総紫〉庄之助（17代）、〈紫白〉（進改め）伊之助（11代）|〈朱・草履〉誠道、朝之助|〈朱・足袋〉与太夫（5代）、勘太夫（3代）、錦太夫（3代）、大藏、角治郎、庄吾、清治郎|〈紅白〉左門、善明、留吉|〈青白〉鶴之助、錦之助、竹次郎、啓治郎|〈黒〉金吾、…

- 伊之助（10代）は庄之助（17代）を襲名した。『読売』（M45.5.13）の「庄之助・伊之助の昇格式」を参照⁷。
- 進が式守伊之助（11代）を襲名した。『国民』（M45.5.12）の「新番付節用」や『やまと』（M45.5.12）の「行司の襲名」を参照。

進の紫房昇進について、『日日』（T2.1.12）の「伊之助の昇進」に次のような記述がある。

「式守伊之助は初日まで紫房に白が交ざりおりしも二日目より真の紫房に昇進し、立派な立行司となれり」

この記述では、2日目から総紫房を使用したかのような印象を受ける。これは、実は、それまで半々紫白だったが、第二席の式守伊之助として「(真)紫白房」に変わったことを表現している。ということは、それまで進は第三席の准立行司として半々紫白房を使用していたことになる⁸。

(1) 大正2年1月場所

〈総紫〉庄之助(17代)、〈紫白〉伊之助(11代) | 〈朱・草履〉誠道、朝之助、○与太夫(5代) | 〈朱・足袋〉勘太夫、錦太夫、大藏、角治郎、庄吾 | 〈紅白〉清治郎、左門、善明、留吉 | 〈青白〉鶴之助、錦之助、竹二郎、啓二郎 | 〈黒〉金吾、…

- ・ 庄之助は総紫房、伊之助は半々紫白房から(真)紫白房になった⁹。『日日』(T2.1.12)の「伊之助の昇進」を参照。

以下の行司は場所中に房色が授与され、授与日以降その房色を使用している。番付表に基づけば、夏場所(5月)となる。中には事前に使用許可を受けていた行司もいたかもしれないが、それを確認する術がない。

- ・ 誠道は場所中(8日目)、紫白房を許された。誠道は准立行司(第三席)なので、半々紫白房を使用しているに違いない¹⁰。『日日』(T8.2.18)の「大相撲評判記—木村誠道」、『読売』(T2.1.18)の「相撲だより—行司の出世」、『読売』(T2.1.24)の「春場所成績評(終)—行司と幕下」を参照¹¹。
- ・ 勘太夫はこの場所中(4日目)、草履を許され、三役となる。『やまと』(T2.1.15)の「行司の出世」、『毎夕』(T2.1.14)の「行司昇進」、『日日』(T2.1.14)の「大相撲評判記—名行司式守勘太夫」を参照。
- ・ 錦太夫(朱房)が常陸山土俵入り(6日目)を急きょ引くことになった。『読売』(T2.2.27)の「横綱土俵入りと緋総」を参照。
- ・ 清治郎と左門はこの場所中(7日目)、朱房に昇格。『読売』(T2.1.17)の「相撲だより—行司の出世」、『朝日』(T2.1.17)の「出世した行司」、『やまと』

（T2.1.17）の「出世行司」を参照。清治郎の紅白房への昇格については、中英夫著『武州の力士』（p.67）も参照。

- 鶴之助はこの場所（4日目）、紅白房（本足袋）に昇格している。『読売』（T2.1.14）の「行司の出世」、『日本』（T2.1.14）の「行司の出世」、『毎夕』（T2.1.4）の「行司昇進」を参照。
- 錦之助（4代）は中日より紅白房（本足袋）に昇格している。『やまと』（T2.1.15）の「行司の出世」を参照。しかし、兵役のため、行司を離脱し、4年5月に復帰している。
- 金吾は場所中（7日目）、青白房（格足袋）に出世した。『読売』（T2.1.17）の「相撲だより一行司の出世」や『朝日』（T2.1.17）の「出世した行司」を参照。19代式守伊之助著『軍配六十年』（昭和36年）の「年譜」（pp.156-9）も参照。
- 与之吉、喜太郎、藤太郎は場所中（8日目）、青白房に昇格した。『読売』（T2.1.18）の「相撲だより一行司の出世」、『日本』（T2.1.18）の「行司の出世」、21代木村庄之助（元・与之吉）著『ハッケヨイ人生』（p.76）を参照。

（2）大正2年5月場所

〈総紫〉庄之助、〈紫白〉伊之助、〈半々紫白〉○誠道 | 〈朱・草履〉朝之助、与太夫、○勘太夫（3代） | 〈朱・足袋〉錦太夫、大藏、（角治郎改め）庄三郎、（庄吾改め）庄五郎、○左門、○清治郎 | 〈紅白〉善明、留吉、○鶴之助 | 〈青白〉竹治郎、啓治郎、（金吾改め）○玉治郎、○与之吉、○喜太郎、○藤太郎 | 〈黒〉兼二郎、…

- 伊之助が死去した。『報知』（T3.3.16）の「式守伊之助逝く」
- 清治郎はこの場所、紅白房に昇格した。中英夫著『武州の力士』（p.67）を参照。
- 角治郎は庄三郎に、庄吾は庄五郎に、金吾は玉治郎に改名している¹²。『朝日』（T2.5.8）の「改名の力士」、『福岡日日』（T2.5.9）の「出世と改名力士」、

『軍配六十年』（昭和36年）の「年譜」（pp.155-9）を参照。

- ・ 鶴之助は紅白房に昇格した。『読売』（T2.1.14）の「相撲だより一行司の出世」や『毎夕』（T2.1.14）の「行司昇進」を参照。
- ・ 啓治郎、与之吉、玉治郎が青白房（十両行司）である。『読売』（T2.2.30）の「与太夫、勘太夫」を参照。

（３）大正３年１月場所

〈総紫〉庄之助、〈紫白〉伊之助、〈半々紫白〉誠道 | 〈朱・草履〉朝之助、与太夫、勘太夫 | 〈朱・足袋〉錦太夫、大藏、庄三郎、庄五郎、左門、○善明、清治郎 | 〈紅白〉留吉、鶴之助 | 〈青白〉竹治郎、与之吉、啓治郎、玉治郎、喜太郎、藤太郎 | 〈黒〉左右司、…

- ・ 伊之助（11代）は3月に死去。『報知』（T4.3.16）の「式守伊之助逝く」を参照。伊之助が死去していることは、『都』（T3.5.21）の「新番付の発表」や『毎夕』（T3.5.21）の「式守襲名問題」でも確認できる。
- ・ 錦太夫（3代）と大藏は草履を許されている。『毎夕』（T3.1.18）の「行司の昇進」や『日本』（T3.1.18）の「昇進した行司」を参照。
- ・ 竹治郎は場所中（8日目）、紅白房に昇格した。『日本』（T3.1.8）の「昇進した行司」や『時事』（T3.1.18）の「行司の昇進」を参照。
- ・ 左右司は青白房に昇格した。『毎夕』（T3.1.18）の「昇進行司」や『時事』（T3.1.18）の「行司の昇進」を参照。

（４）大正３年５月場所

〈総紫〉庄之助、〈（真）紫白〉○誠道、〈半々紫白〉○朝之助 | 〈朱・草履〉与太夫、勘太夫、○錦太夫、○大藏 | 〈朱・足袋〉庄三郎、庄五郎、左門、善明、清治郎 | 〈紅白〉留吉、鶴之助、○竹治郎 | 〈青白〉与之吉、啓治郎、玉治郎、喜太郎、藤太郎、○左右治 | 〈黒〉光之助、…

- ・ 誠道は第二席に昇格したが、伊之助を襲名していない。悪霊の祟りを怖れた

からである。しかし、房色は半々紫白から真紫白に変わっているはずだ。『毎夕』（T3.5.21）の「式守伊之助が今場所より廃絶」／「式守襲名問題」、『読売』（T3.5.22）の「鬼一郎が伊之助か—崇っている名前」、『読売』（T3.5.23）の「怨霊の追弔会」、『日日』（T3.5.21）の「改名と除名」を参照。

- 朝之助は半々紫白房だった。夏場所の土俵祭で祭司を執り行っている。『やまと』（T3.5.31）の「夏場所相撲—吉例土俵祭」を参照¹³。
- 与之吉は場所中（9日目）、紅白房に昇格した。小池謙一筆「年寄名跡—立田川代々の巻（40）」（平成4年12月，p.157）を参照¹⁴。21代木村庄之助（元・与之吉）著『ハッケヨイ人生』（昭和41年，p.72とp.76）では、大正5年5月に紅白に昇格したとあるが、それは勘違いかも知れない。玉治郎が4年5月中に紅白房に昇格しているのに、2枚ほど上の与之吉が5年5月に紅白に昇格するというのはあり得ないからである。
- 留吉は場所中（6日目）、朱房に昇格した。『時事』（T3.6.5）の「朱総格の出世」を参照。
- 清治郎は朱房・足袋の端っこに記載されている、離脱や復帰を繰り返していたらしい。

（5）大正4年1月場所

〈総紫〉庄之助，〈（真）紫白〉○（誠道改め）伊之助（12代），〈半々紫白〉朝之助 | 〈朱・草，履〉与太夫，勘太夫，錦太夫，大藏 | 〈朱・足袋〉庄三郎，庄五郎，左門，善明，○（留吉改め）福松，清治郎 | 〈紅白〉鶴之助，竹治郎，○与之吉 | 〈青白〉啓治郎，玉治郎，（喜太郎改め）喜多雄，藤太郎，左右治，○光之助¹⁵ | 〈黒〉浅二郎，…

- 誠道が伊之助を襲名した。『読売』（T3.5.24）の「愈々伊之助襲名」，『大阪朝日』（T3.5.30）の「東京角力」，『日日』（T4.1.6）の「友綱が再び表面」を参照。
- 清治郎については、『国技』（T5.5）の狂角浪人筆「行司総まくり」（pp.23-5）

を参照。

- 番付表で留吉が福松に改名している。
- 光之助は青白房に昇格している。小池謙一筆『年寄名跡代々（65）—宮城野代々の巻（下）』(pp.104-5)を参照。

（6）大正4年5月場所

〈総紫〉庄之助，〈(真)紫白〉伊之助，〈半々紫白〉朝之助 | 〈朱・草履〉与太夫，勘太夫，錦太夫，大藏 | 〈朱・足袋〉庄三郎，庄五郎，左門，善明，福松，清治郎 | 〈紅白〉鶴之助，錦之助，竹治郎，与之吉，○啓治郎 | 〈青白〉玉治郎，藤太郎，喜三郎，喜太郎，左右司，光之助，○浅治郎，○喜久司 | 〈黒〉政二郎，…

- 啓治郎はこの場所，紅白房である。19代式守伊之助著（元・玉治郎）『軍配六十年』（昭和36年，p.28とp.157）を参照。
- 錦之助（のちの7代錦太夫，9代与太夫）は兵役から復帰した。『大相撲春場所初号』（昭和16年1月，サンデー毎日編輯）の「行司紹介」（p.65）で，錦之助は紅白房へ昇格している。しかし，2年1月にすでに紅白房に昇格していたので，この年月は正しくない。元の紅白房として扱われたという意味かも知れない。

（7）大正5年1月場所

〈総紫〉庄之助，〈(真)紫白〉伊之助，〈半々紫白〉朝之助 | 〈朱・草履〉与太夫，勘太夫，錦太夫，大藏 | 〈朱・足袋〉庄三郎，庄五郎，左門，善明，福松，清治郎 | 〈紅白〉（鶴之助改め）正，錦之助，竹治郎，与之吉，啓治郎，○玉治郎 | 〈青白〉藤太郎¹⁶，（喜太雄改め）喜太郎，左右司，光之助，浅治郎，菊治 | 〈黒〉政二郎，…

- 鶴之助は正に改名した。二段目の左端に記載されているが，一人だけ紅白である。

- 朝之助が紫房であることの確認。『日日』（T5.1.15）の「朝之助を斥けよ」、『国民』（T5.1.16）の「失策行司の処罰」、『中央』（T5.1.16）の「朝之助は黒星」を参照。
- 玉治郎は先場所（7日目）、紅白房（本足袋）に昇格した。『やまと』（T4.6.11）の「出世行司」を参照。玉治郎は願書を出していて、もう少し前に昇格すると思っていたらしい。これに関しては、『時事』（T4.6.12）の「玉治郎出世問題」を参照。なお、『角力世界』（T4.6）の「玉治郎の出世」（p.27）では千秋楽に昇格したとしている。5月場所中には昇格している¹⁷。なお、『軍配六十年』の「伊之助思い出のアルバム」には免許状が掲載されているが、日付は4年11月となっている。

（8）大正5年5月場所

〈総紫〉庄之助、〈（真）紫白〉伊之助、〈半々紫白〉朝之助 | 〈朱・草履〉与太夫、勘太夫、錦太夫、大藏 | 〈朱・足袋〉庄三郎、庄五郎、左門、善明、福松、清治郎 | 〈紅白〉正、錦之助、竹治郎、与之吉、啓治郎、玉治郎 | 〈青白〉藤太郎、喜三郎、喜太郎、左右司、光之助、喜久治 | 〈黒〉政二郎、
...

- 清治郎については、『国技』（T5.5）の狂角浪人筆「行司総まくり」（pp.23-5）を参照。「しばしば脱走した報いで、ヤツと幕内行司の尻ッポに付け出されている」（p.25）と書いてあるが、この「幕内行司」は、本稿の「朱房・足袋」に相当するようだ。

（9）大正6年1月場所

〈総紫〉庄之助、〈（真）紫白〉伊之助、〈半々紫白〉朝之助 | 〈朱・草履〉与太夫、勘太夫、錦太夫、大藏 | 〈朱・足袋〉庄三郎、庄五郎、左門、福松、清治郎 | 〈紅白〉正、錦之助、竹治郎、与之吉、啓治郎、玉治郎 | 〈青白〉藤太郎、喜三郎、喜太郎、兼治郎、左右司、光之助、喜久司、政治郎 | 〈黒〉

勝見，…

- 左門は1月，行司でありながら，年寄立田川になった。二枚鑑札である。『相撲』(平成7年10月)の小池謙一筆『年寄名跡代々(68)―錦島代々の巻(下)』(pp.154-7)を参照。

(10) 大正6年5月場所

〈総紫〉庄之助，〈(真)紫白〉伊之助，〈半々紫白〉朝之助 | 〈朱・草履〉与太夫，勘太夫，錦太夫，大藏 | 〈朱・足袋〉庄三郎，庄五郎，左門，福松，清治郎 | 〈紅白〉正，錦之助，竹治郎，与之吉，啓治郎，玉治郎 | 〈青白〉藤太郎，喜三郎，喜太郎，善治郎，左右司，光之助，政治郎，○勝己 | 〈黒〉作太郎，…

- 善明は番付に記載されていない。『ハッケヨイ人生』(p.41)には死去について書いてあるが，いつ亡くなったかはわからない。

(11) 大正7年1月場所

〈総紫〉庄之助，〈(真)紫白〉伊之助，〈半々紫白〉朝之助 | 〈朱・草履〉与太夫，勘太夫，錦太夫，大藏 | 〈朱・足袋〉庄三郎，庄五郎，左門，福松，清治郎 | 〈紅白〉正，錦之助，竹治郎，与之吉，啓治郎，玉治郎，○(藤太郎改め)誠道 | 〈青白〉喜三郎，喜太郎，兼治郎，左右司，光之介，政治郎，勝己 | 〈黒〉作太郎，…

- 清治郎については，『春場所相撲号』(T7.1)の呼出奴談「今と昔相撲物語」(pp.61-3)を参照。

(12) 大正7年5月場所

〈総紫〉庄之助，〈紫白〉伊之助，〈半々紫白〉朝之助 | 〈朱・草履〉与太夫，勘太夫，錦太夫，大藏 | 〈朱房・足袋〉庄三郎，庄五郎，左門，清治郎 | 〈紅白〉正，錦之助，竹治郎，与之吉，啓治郎，玉治郎¹⁸，誠道，○喜三郎 |

〈青白〉喜太郎，善治郎，左右司，光之介，政治郎，勝己，○作太郎 | 〈黒〉延司，…

- 正と錦之助はこの場所（2日目），朱房に昇格した。鶴之助はこの場所，正に改名した。『報知』（T7.5.14）の「行司の昇格」と『中央』（T7.5.14）の「出世行司」を参照。しかし、『夏場所相撲号』（T10.5）の式守与太夫・他筆「行司さん物語—紫総を許される迄」（p.105）によると，大正10年1月には庄三郎，瀬平，左門の3名が朱房行司となっている¹⁹。星取表でも，この場所から9年1月まで正（鶴之助）と錦之助は三段目に記載されている。番付表でもそのあいだ，正（鶴之助）は一枚上の清治郎と同じ段では記載されていない。このことから，本稿では正（鶴之助）と錦之助は10年5月まで紅白房だったと扱うことにする²⁰。
- 福松は大正7年1月に死去している。『角力世界』（T7.2，p.16）参照。5月場所番付表では記載されていない。
- 喜三郎はこの場所（2日目），紅白に昇格した。『報知』（T7.5.14）の「行司の昇格」と『中央』（T7.5.14）の「出世行司」を参照²¹。
- 作太郎はこの場所（2日目），青白房に昇格した。『報知』（T7.5.14）の「行司の昇格」と『中央』（T7.5.14）の「出世行司」を参照。

（13）大正8年1月場所

〈総紫〉庄之助，〈紫白〉伊之助，〈半々紫白〉朝之助 | 〈朱・草履〉与太夫，勘太夫，錦太夫，大藏 | 〈朱・足袋〉庄三郎，庄五郎，左門，清治郎 | 〈紅白〉正，錦之助，竹治郎，与之吉，啓治郎，玉治郎，誠道，（喜三郎改め）要人 | 〈青白〉（喜太郎改め）善之輔，兼治郎，左右司，光之助，政治郎，勝見，作太郎 | 〈黒〉延司，…

- 庄之助は柳橋の芸妓家栄家の主人専門になるという記事がある。『報知』（T8.5.31）の「東関と庄之助」を参照。大正10年5月に行司職（立行司）を辞職しているが，経済的に困ることがなかったかもしれない。

(14) 大正8年5月場所

〈総紫〉庄之助, 〈紫白〉伊之助, 〈半々紫白〉朝之助 | 〈朱・草履〉与太夫, 勘太夫, 錦太夫, 大藏 | 〈朱・足袋〉庄三郎, 庄五郎, 左門, 清治郎 | 〈紅白〉正, 錦之助, 竹治郎, 与之吉, 啓治郎, 玉治郎, 誠道, 要人 | 〈青白〉善之輔, 兼治郎, 左右司, 光之助, 政治郎, 勝己, 作太郎 | 〈黒〉延司, …

(15) 大正9年1月場所

〈総紫〉庄之助, 〈紫白〉伊之助, 〈半々紫白〉朝之助 | 〈朱・草履〉与太夫, 勘太夫, 錦太夫, 大藏 | 〈朱・足袋〉庄三郎, (庄五郎改め) 瀬平, 左門, 清治郎 | 〈紅白〉(正改め) 鶴之助, 錦之助, 竹治郎, 与之吉, 啓治郎, 玉治郎, 誠道, 要人, ○善之輔 | 〈青白〉左右司, 光之助, 政治郎, 勝己, 作太郎 | 〈黒〉治郎, …

- 庄五郎(4代)は瀬平(7代)に改名した。『角力雑誌』(T10.5)の「勧進元評判記」(p.47)や『相撲』(平成9年1月)の小池謙一筆『年寄名跡代々(88) — 木村瀬平の巻(下)』(pp.102-5)を参照。
- 善之輔は紅白房に昇格した。中村倭夫著『信濃力士伝』(甲陽書房, 昭和63年, p.290)には昭和5年5月場所, 紅白房へ昇格したとあるが, それは二度目の昇格である²²。また, 『大相撲春場所』(昭和16年1月, サンデー毎日編輯)の「行司紹介」(p.65)では, この場所, 青白房に昇格したとあるが, この年月は何かのミス。
- 清治郎は2月に亡くなった, 中英夫著『武州の力士』(p.68)を参照。

(16) 大正9年5月場所

総紫〉庄之助, 〈紫白〉伊之助, 〈半々紫白〉朝之助 | 〈朱・草履〉与太夫, 勘太夫, 錦太夫, 大藏 | 〈朱・足袋〉庄三郎, 瀬平, 左門 | 〈紅白〉鶴之助, 錦之助, 竹治郎, 与之吉, 啓治郎, 玉治郎, 誠道, 要人, 善之輔 | 〈青白〉

左右司，光之助，政治郎，勝己，作太郎 | 〈黒〉治郎，…

（17）大正10年 1 月場所

総紫）庄之助，〈紫白〉伊之助 | 〈朱・草履〉与太夫，勘太夫，錦太夫，大藏 | 〈朱・足袋〉庄三郎，瀬平，左門 | 〈紅白〉鶴之助，錦之助，竹治郎，与之吉，啓治郎，玉治郎，誠道，要人，善之輔 | 〈青白〉左右司，光之助，政治郎，勝己，作太郎 | 〈黒〉治郎，…

- 与太夫，勘太夫，錦太夫，大藏の4名は朱房・草履行司であり，また庄三郎，瀬平，左門の3名は朱房・無草履（足袋）行司である。『春場所相撲号』（T 10.5）の「行司さん物語—紫房を許される迄」（p.105）を参照²³。
- 玉堂と治郎は春場所，青白房（格足袋）に昇格している。『角力雑誌』（T 10.2）の「1 月出世行司」（p.26）を参照。

（18）大正10年 5 月場所

総紫）庄之助，〈紫白〉伊之助，〈半々紫白〉朝之助 | 〈朱・草履〉与太夫，勘太夫，錦太夫，大藏 | 〈朱・足袋〉庄三郎，瀬平，左門 | 〈紅白〉鶴之助，錦之助²⁴，竹治郎，与之吉，啓治郎，玉治郎，誠道，要人，善之輔，○左右司，○光之助 | 〈青白〉政治郎，勝己，作太郎，○治郎，○玉堂 | 〈黒〉今朝造，…

- 庄之助（17代）は夏場所5日目，駒ヶ岳と大錦の勝負判定で差し違えし，その責任を取り，その日に辞職した²⁵。『読売』（T 10.5.19）の「行司界革新の記を示す」，『大阪朝日』（T 10.5.18）の「庄之助の引退」，『日日』（T 10.5.19）の「庄之助引責が描く波紋」，『国民』（T 10.5.19）の「軍配の差し違いから庄之助が罷（やめ）る」，『報知』（T 10.5.9）の「引退の庄之助に同情集まる」を参照。
- 伊之助（12代）は庄之助襲名固辞の意向を示す。『大阪毎日』（T 10.5.19）の「行司伊之助も引退しよう」や『報知』（T 10.5.20）の「伊之助の固辞—伊之

助は空位か」を参照。

- 与太夫は7日目、紫白房を臨時に許された。『二六』（T10.5.21）の「木村大藏引退」や『読売』（T10.5.21）の「三杉休場一朝之助は謹慎」を参照。第四席なので、本来は朱房である。臨時の紫白房は、厳密には半々紫白房だったに違いない。『読売』（T10.5.21）によれば、残りの場所もその紫白房を許されている。
- 大藏は病気のため、夏場所で行司を辞めている。『やまと』（T10.5.24）の「木村大藏引退」や『報知』（T11.1.6）の「新番付総評」を参照。

(19) 大正11年1月場所²⁶

〈総紫〉○（朝之助改め）庄之助（18代），〈紫白〉○（与太夫改め）伊之助（13代），〈半々紫白〉○勘太夫 |（朱・草履）錦太夫 | 〈朱・足袋〉庄三郎，瀬平，左門，○鶴之助，○錦之助（4代），○竹治郎，○与之吉 | 〈紅白〉啓治郎，玉治郎，誠道，要人，善之輔，光之助 | 〈青白〉政治郎，勝己，作太郎，治郎，玉堂 | 〈黒〉袈裟三，…

- 朝之助は伊之助を経験することなく，木村庄之助（18代）を襲名した。『やまと』（T11.1.6）の「行司決まる一朝之助が庄之助，与太夫が伊之助」，『国民』（T11.1.6）の「行司の襲名」，『日日』（T11.1.6）の「春場所の番付〈その他〉」を参照。朝之助はそれまでの半々紫白房だったが，木村庄之助襲名をし，総紫房になった。
- 与太夫（5代）は伊之助（13代）を襲名した。『国民』（T11.1.6）の「行司の襲名」，『読売』（T11.1.6）の「朝之助が18代庄之助を襲名」，『萬』（T11.1.4）の「新立行司一朝之助と与太夫」を参照。すなわち，与太夫は臨時の半々紫白房から真紫白房になった。
- 勘太夫（3代，のちの14代伊之助）はこの場所（4日目），朱房から紫白房（厳密には半々紫白房）に昇格した。『報知』（T11.1.16）の「新番付総評」や『中央』（T11.1.18）の「勘太夫の出進」を参照。この半々紫白房は内々の区別

であって、伊之助と同様に「紫白房」と呼んでいた²⁷。

- 錦之助（4代、のちの16代式守伊之助）は11年春場所（1月）に幕内格（おそらく朱房・足袋格）に昇格している。『大相撲』（昭和54年3月）の泉林八談「22代庄之助一代記（9）」（pp. 146-8）を参照。『大相撲人物大事典』（平成13年）の「行司の代々―歴代行司名一覧」（p. 695）でも錦之助はこの場所で幕内（朱房）に昇格している。
- 鶴之助と錦之助は大正10年5月発行の雑誌記事で共に紅白だと記されており、しかも錦之助が11年1月に朱房へ昇格していることから、一枚上の鶴之助もきっと同時に朱房へ昇格したに違いない。鶴之助と錦之助が紅白房へ昇格したのは、同じ大正2年1月だった。
- 瀬平は今場所限りで行司を辞職し、年寄専務となった。『相撲』（平成9年1月）の小池謙一筆『年寄名跡代々（88）―木村瀬平の巻（下）』（pp. 102-5）を参照。
- 与之吉は朱房の幕内へ昇格している。星取表で二段目に記載されている。二段目までは朱房以上を記載する。『大相撲』（昭和54年3月）の泉林八談「22代庄之助一代記（9）」（pp. 146-8）や『大相撲春場所』（昭和16年1月、サンデー毎日編輯）の「行司紹介」（p. 65）では、大正11年5月（夏場所）に幕内格へ昇進している²⁸。これは朱房の幕内格である。本稿では、星取表に基づき、春場所で昇格したと捉えている。星取表は場所後に発行されるので、昇進は場所中だったかもしれない。

（20）大正11年5月場所

〈総紫〉庄之助（18代）、〈紫白〉伊之助、〈半々紫白〉勘太夫 | 〈朱・草履〉（錦太夫改め）与太夫 | 〈朱・足袋〉庄三郎、左門、鶴之助、（錦之助改め）錦太夫（4代）、竹治郎、与之吉、○啓治郎 | 〈紅白〉玉治郎²⁹、誠道、要人、善之輔 | 〈青白〉光之助、政治郎、勝己、作太郎、治郎 | 〈黒〉袈裟三、
...

- ・ 啓治郎は朱房に昇格している。『相撲の史跡（3）』（p. 20）を参照。「幕内格に昇進したばかりの大正11年5月限りの現役死亡」（p. 20）とあるので、5月場所で昇格したと判断した。この「幕内格」は「朱・足袋格」である。すでに、紅白房（幕内格）だったからである。しかし、啓治郎は11年1月番付表によると、二段目の左端に記載されている。もしかすると、先場所（つまり1月場所）にはすでに昇格していたかもしれない³⁰。5月場所と1月場所のうち、いずれが正しいかは必ずしもはっきりしない。
- ・ 錦太夫（4代）は与太夫（7代）に改名した。『やまと』（T11.5.6）の「錦太夫が与太夫を襲名」や『大相撲』（昭和54年3月）の泉林八談「22代庄之助一代記（9）」（pp. 146-8）を参照。
- ・ 左門は5月、行司を辞め、年寄専務・立田川になった。『やまと』（T12.1.6）の「春場所番付発表」や『相撲』（平成4年12月）の小池謙一筆「年寄名跡代々（40）—立田川代々の巻」（pp. 156-7）を参照³¹。

（21）大正12年1月場所

〈総紫〉庄之助、〈紫白〉伊之助、〈半々紫白〉勘太夫 | 〈朱・草履〉与太夫 | 〈朱・足袋〉庄三郎、鶴之助、錦太夫、竹治郎、与之吉 | 〈紅白〉玉治郎、治郎、誠道、要人、善之輔、○光之助、○政治郎、○勝己 | 〈青白〉作太郎、治郎、○袈裟三 | 〈黒〉真之介、…

- ・ 光之助は春場所、紅白房に昇格した。『相撲』（平成7年10月）小池謙一筆「年寄名跡代々（68）—錦島代々の巻（下）」（pp. 154-7）を参照。「春場所」ではなく、「1月頃」とあり、具体的な「月」は必ずしも明確でない。番付記載から「春場所」と判断した。
- ・ 番付によると、春場所に政治郎と勝己は昇格したようだ。番付以外には裏付けとなる資料を見ていない。
- ・ 今朝三は青白房に昇格し、年寄錦島を襲名した。二枚鑑札。『相撲』（昭和44年10月号）の小池謙一筆「年寄名跡の代々（73）—錦島代々の巻（下）（154-

7)」や『相撲』（昭和31年8月）の「行司木村今朝三—8代目錦島三太夫を襲名」（p.186）を参照³²。

- 啓治郎は5月に亡くなっている。番付表に記載されていない。

（22）大正12年5月場所

〈総紫〉庄之助，〈紫白〉伊之助，〈半々紫白〉勘太夫 | 〈朱・草履〉与太夫 | 〈朱・足袋〉庄三郎，鶴之助，錦太夫，竹治郎，与之吉³³ | 〈紅白〉玉治郎，誠道，要人，善之輔，光之助，政治郎，勝己 | 〈青白〉作太郎，次郎，袈裟三 | 〈黒〉真之介，…

（23）大正13年1月場所

〈総紫〉庄之助，〈紫白〉伊之助，〈半々紫白〉勘太夫 | 〈朱・草履〉与太夫 | 〈朱・足袋〉庄三郎，鶴之助，錦太夫，竹治郎，与之吉 | 〈紅白〉玉治郎，誠道，要人，善之輔，光之助，政次郎，勝己，○作太郎 | 〈青白〉治郎，袈裟三 | 〈黒〉真之介，…

- 真之介と栄治郎は青白房に昇格した。『大相撲』（昭和36年7月）の「行司の昇進と改名」（p.106）を参照。
- 作太郎は紅白房に昇格している。先場所の番付表では一枚上の勝己とのあいだに大きな空間があり，字の大きさや太さにも差があったが，この1月場所では勝己とのあいだに隙間がなく，字の大きさや太さも同じである。番付表以外に，作太郎の紅白房昇格を裏付ける資料はまだ見ていない。
- 瀬平は3月，亡くなった。『相撲』（平成9年1月）の小池謙一筆「年寄名跡代々（88）—木村瀬平の巻（下）」（pp.102-5）を参照³⁴。

（24）大正13年5月場所

〈総紫〉庄之助，〈紫白〉伊之助，〈半々紫白〉勘太夫 | 〈朱・草履〉与太夫 | 〈朱・足袋〉庄三郎，鶴之助，錦太夫，竹治郎，与之吉 | 〈紅白〉玉治郎，

誠道，要人，善之輔，光之助，政治郎，勝己，作太郎，○（治郎改め）銀治郎，○今朝三 | 〈青白〉○（芳松改め）義，○眞之助，○栄治郎 | 〈黒〉善太郎，…

- 林之助（大阪相撲出身，のちの22代木村庄之助）は幕内格としてつけ出すことについて行司間に異論があり，しばらく延期している。『朝日』（T13.5.18）の「行司に椅子やれ」を参照。
- 治郎は銀治郎に改名した。番付では「治郎」になっている。先場所は「次郎」だった。
- 義はこの場所（千秋楽），青白房に昇格した。『大相撲』（昭和47年5月号）の「その後の四庄之助」（p.59）や『大相撲』（昭和39年7月）の24代木村庄之助談「行司生活五十五年」（pp.44-50）を参照。
- 瀬平は7月，亡くなった。相撲史跡研究会編・発行『相撲の史跡（3）』（昭和55年，p.72）や『大相撲人物大事典』の「行司の代々」（p.703）を参照。

（25）大正14年1月場所

〈総紫〉庄之助，〈紫白〉伊之助，〈半々紫白〉勘太夫 | 〈朱・草履〉与太夫 | 〈朱・足袋〉庄三郎，鶴之助，錦太夫，竹治郎，与之吉，○林之助 | 〈紅白〉玉治郎，誠道，要人，善之輔，光之助，政治郎，勝己，作太郎，銀治郎，今朝三， | 〈青白〉義，眞之介，栄治郎 | 〈黒〉善太郎，…

- 林之助（のちの22代庄之助）は朱房幕内につけ出された。『都』（T14.1.6）の「大男出羽嶽が入幕す一新番付の発表」，『大相撲』（昭和54年3月）の「22代庄之助一代（9）」（p.146），22代木村庄之助著『行司と呼出し』（p.49）などを参照。
- 玉治郎（のちの19代伊之助）は春場所，朱房に昇格している³⁵。『相撲』（昭和33年2月）の「伊之助回顧録（3）」（p.205）や『近世日本相撲史（3）』（p.19）を参照。『軍配六十年』（昭和36年，p.28とp.158）には三役に昇格したと書いてあるが，朱房行司を意味しているに違いない³⁶。

- ・ 誠道（3代）はこの場所、朱房になった。朱房の免許状（大正14年2月付）が相撲博物館にある。
- ・ 庄三郎（前名：角治郎）は14年4月に死去した。『相撲』（平成10年8月）の小池謙一筆『年寄名跡代々（108）一常盤山代々の巻（下）』（pp.118-21）や『大相撲』（昭和54年3月）の泉林八談「22代庄之助一代記（9）」（pp.146-8）を参照。

（26）大正14年5月場所

〈総紫〉庄之助，〈紫白〉伊之助，〈半々紫白〉勘太夫 | 〈朱・草履〉与太夫 | 〈朱・足袋〉鶴之助，錦太夫，竹治郎，与之吉，林之助，○玉治郎，○誠道 | 〈紅白〉要人，善之輔，光之助，政治郎，勝己，作太郎，銀治郎，今朝三 | 〈青白〉義，真之助，栄次郎 | 〈黒〉善太郎，…

- ・ 亡くなった庄之助は伊之助を襲名することが決まっていた。『中央』（T14.6.16）の「木村庄之助は伊之助が継ぐ」を参照。
- ・ 真之介は足袋行司であることの確認。『やまと』（T14.5.22）の「大相撲春場所（8日目）」を参照。新聞記事では「春之助」とあるが、誤植に違いない。

（27）大正15年1月場所

〈総紫〉○（伊之助改め）庄之助（19代），〈紫白〉○（勘太夫改め）伊之助（14代） | 〈朱・草履〉与太夫 | 〈朱・足袋〉鶴之助，錦太夫，竹治郎，（与之吉改め）勘太夫，林之助，（玉治郎改め）庄三郎，誠道 | 〈紅白〉要人，善之輔，光之助，政治郎³⁷，勝己，作太郎，銀治郎，今朝三 | 〈青白〉義，真之介，栄次郎，善太郎，○喜市 | 慶太郎，…

- ・ 18代木村庄之助（もと朝之助）が急に亡くなった。『時事』（T15.1.6）の「10日前に死んで居る行司伊之助一きのうの新番付面で昇進した前の勘太夫」を参照。
- ・ 伊之助（13代）が庄之助（19代）を，与太夫（6代）が伊之助（15代）を，

勘太夫（3代）が伊之助（14代）をそれぞれ襲名した。与太夫の伊之助襲名は番付上、5月場所である。『時事』（T15.1.6）の「今朝発表された大相撲新番付」、『都』（T15.1.6）の「春場所の新番付」を参照。

- 新・伊之助（14代、もと勘太夫6）は場所前の12月に亡くなった。『大阪毎日』（T15.1.6）の「東西大相撲の新番付—番付面から消えた栃木山の名」や『大阪時事』（T15.11.7）の死亡記事「式守伊之助一生え抜の行司」を参照。伊之助は番付に記載されており、結局、位牌行司となった。
- 与太夫（6代）はこの場所、伊之助（15代）になったと語っている。『夏場所相撲号』（S10.5）の「行司生活五十一年」（p.79）を参照。番付に伊之助（15代）として記載知れたのは、翌5月場所である。与太夫（6代）はこの1月場所から伊之助の「紫白房」を使用したに違いない³⁸。
- 与之吉は勘太夫（4代、のちの21代庄之助）に改名している。『時事』（T15.1.6）の「大相撲新番付」、『名古屋』（T15.1.6）の「春場所番付—行司」、『大相撲』（昭和54年3月）の泉林八談「22代庄之助一代記（9）」（pp.146-8）を参照。21代木村庄之助著『ハッケヨイ人生』では房色も朱になり、「三役」になったと書いている³⁹。
- 玉治郎は庄三郎（8代）に改名した。『時事』（T15.1.6）の「大相撲新番付—改名」、『都』（T15.1.6）の「春場所の新番付」、『大阪時事』（T15.1.6）の「東西相撲新番付」を参照。『軍配六十年』の「年譜」（p.158）には14年春に三役格に昇進しているが、これは正しくないようだ。林之助が朱房・足袋のドン尻に付け出され、玉治郎は紅白筆頭になっているからである。
- 竹治郎は春場所後、行司を辞めている。『大相撲』（昭和54年3月）の泉林八談「22代庄之助一代記（9）」（p.147）を参照。
- 年寄春日野は入間川に改名した⁴⁰。『名古屋』（T15.1.6）の「春場所新番付—改名」を参照。

（28）大正15年 5 月場所

〈総紫〉庄之助（19代）、〈紫白〉○（与太夫改め）伊之助（15代）| 〈朱・草履〉○錦太夫（4代）| 〈朱・足袋〉勘太夫、鶴之助⁴¹、林之助、庄三郎、誠道 | 〈紅白〉要人、善之輔、光之助、政治郎、勝己、作太郎、銀治郎、今朝三 | 〈青白〉義、真之介、（栄治郎改め）庄吾、善太郎、喜市 | 〈黒〉慶太郎、…

- 与太夫（6代）が伊之助（15代）を襲名した。『日日』（T15.5.6）の「夏場所新番付発表」、『都』（T15.5.13）の「初日は民衆デー」、『大阪毎日』（T15.5.6）の「東京大相撲夏場所新番付」を参照。
- 錦太夫が番付表で最上段に記載されている。草履を履く三役になった。草履を裏付ける証拠は『春場所大相撲』（昭和2年1月）の取組写真「若葉山と玉錦の取組」だが、裁いている錦太夫の足元はぼやけて不鮮明である。
- 義から喜市まで5名は青白房である。『都』（昭和2年1月18日）の「新番付発表」を参照。

2. 今後の課題

本稿では多くの資料を駆使して、大正期の行司番付を階級分けし、それを房色で表示した。傘型記載を現在の横型記載に並べ替えてある。どちらの記載であっても、行司の序列は簡単に見分けがつく。傘型は中心の行司を頂点とし、右左交互に順序を決めていく。端数の場合は、原則として左端に記載する。非常にまれなことだが、右端に記載されていることもある。そうする理由には何かあるはずだが、今のところ、その理由がはっきりしない。この解明は今後の課題の一つとしておく。

本稿の課題としては、もちろん、提示された階級分けが正しいかどうかを検討することである。階級と房色は一致するので、階級分けがわかれば、房色もおのずから判明する。朱房・草履以上の行司は地位が高いため、階

級の見分けではまったく問題ない。それらの行司で問題があるとすれば、提示した房色が実際にあったかどうかである。本稿では紫房に三種を認め、それを個々の行司に提示してある。その提示が事実と合致していたかどうかである。その真偽は今後、検討しなければならない。朱房・草履は三役行司なので、その見分けに誤りがないかどうかを検討することになる。

朱房・無草履（足袋）の行司と紅白の行司の区分け、幕内行司と十両行司の区分け、それから十両行司と幕下行司の区分けはすべて、正しく提示されているかどうか、今後も検討する必要がある。実際、番付表はもちろん、多くの資料を活用して区分けしたが、必ずしも容易でないこともあった。異なる階級の前後の行司に関して、具体的な階級や房色の資料がない場合、前場所や翌場所の階級や房色を参考にしなければならない。しかし、その判断が必ずしも正しいとは限らない。

註

- 1 本稿を作成する段階では、特に星取表に関し、葛城市の相撲館（小池弘佛さんと松田司さん）と両国の相撲博物館（中村史彦さん）にお世話になった。ここに、改めて感謝の意を表する。
- 2 歴代の立行司の「紫房」の変種については、たとえば拙著『大相撲行司の格付けと役相撲の並び方』（2023）の第8章「准立行司と半々紫白房」でも詳しく扱っている。
- 3 当時、紫白房に二種の区別があったことは公表されていない。二種とも同じ「紫白房」となっている。第三席の准立行司は半々紫白房、第二席の式守伊之助は（真）紫白房であることに、以前は気づいていなかった。そのために、以前の「紫房」を扱った論考では、ときどき間違った分析をしていることがある。
- 4 『夏場所相撲号』（昭和10年5月号）の20代木村庄之助筆「行司生活五十一年」（p.79）や『春場所相撲号』（昭和11年1月号）の永坂實筆「松翁土俵生活五十有二年」（p.47）を参照。
- 5 鶴之助は大正11年1月に朱房へ昇格しているが、星取表では大正3年1月から7年1月まで最下段の左端に記載されている。鶴之助は大正5年1月から8年5月まで正に改名し、その後、再び元の鶴之助となっている。番付表では、鶴之助（正）は二段目に記載されたり、字が太く大きかったり薄く小さかったりで、階級の見分けが必ずしも容易でない。しかし、大正11年1月に朱房へ昇格していることから、それまでは紅白房として扱っている。

- 6 明治30年以降の行司番付を作成していた頃、明治期ではその星取表が青白房と黒房を区別するのに大いに参考になった。しかし、大正期の星取表では両隣の行司の房色の違いを見分けるのにあまり役立たない。星取表に記載されている行司は上位行司がほとんどであり、その房色の見分けは容易だからである。
- 7 本稿では「新聞」や「新報」を省略してある。英字のMやTは「明治」や「大正」を表す。なお、朱房は緋房や赤房で表すこともある。また「房」の代わりに「総」を使用することもある。
- 8 私は以前、「真の紫房」を総紫房と捉えていたために、式守伊之助でも木村庄之助と同じように「総紫房」を使用すると分析したことがある。明治43年5月以降、第二席の式守伊之助は「紫白房」に決まっていたのに、例外的に11代式守伊之助はその紫房を使用したと誤解していた。実際は、半々紫白房から（真）紫白房に変わったのである。
- 9 春場所2日目に免許を授けられているので、本来なら番付上は夏場所からとなる。そうするのが一貫している。しかし、初日も真紫白房を使用していたと判断した。建前通りなら、初日は半々紫白房で、2日目から真紫白房だったかもしれない。いずれが真実を反映しているかは、今のところ、不明である。
- 10 准立行司の半々紫白については、たとえば拙著『大相撲行司の格付けと役相撲の並び方』（2023）の8章「准立行司と半々紫白房」でも詳しく扱っている。
- 11 『春場所相撲号』（T12.1）の12代式守伊之助談「四十六年間の土俵生活」（p.111）では、明治44年5月場所に紫白房の許可があったと語っている。この年月は勘違いか地方巡業の使用許可かもしれない。当時、第四席だったからである。
- 12 19代式守伊之助（元・玉治郎、庄三郎）著『軍配六十年』（昭和36年、p.28）には、玉治郎に改名したのは春場所となっているが、番付上は夏場所である。「年譜」（p.157）では、春場所に十兩格に昇進し、玉治郎を名乗ったと書いてある。春場所中に十兩に昇進したので、昇進したとき改名したようだ。番付表は少なくとも一場所遅れて表記されるが、房色は免許が届いたその日から使用を許される。それは建前であり、常にその建前通りだったかどうか、検討を要するかもしれない。
- 13 紫白房の正式な免許授与式は大正4年11月だった。これは『角力世界』（T4.12）の「鳳横綱免許授与式」（p.1）に記されている。すなわち、約1年半後である。
- 14 与之吉への紅白房昇格の年月を裏付ける他の資料は、今のところ、見つかっていない。春場所9日目という具体的な年月が指摘されていることから、それを一つの証拠として採用する。出典がないのが、惜しい。
- 15 番付記載では光之助は左右治と共に同じグループになっている。同じ階級と捉えることにした。
- 16 青白房と黒房の階級がびっしりと同じ三段目に記載されているが、字の大きさが異なっている。前場所と翌場所の記載を参照すれば、二つは異なる階級に違いない。
- 17 19代式守伊之助著『軍配六十年』（昭和36年）の「伊之助思い出のアルバム」に掲

載されている紅白房免許状は大正4年11月付になっている。紅白房の許可はすでに出されており、正式な免許があとで授与されたに違いない。

- 18 『大相撲人物大事典』（平成13年）の「行司の代々」の項「19代式守伊之助」（p.695）で、幕内へ昇格したのは大正7年5月場所としているが、これは何かの間違い。大正4年5月場所中に幕内へ昇格していたし、幕内・朱房になったのは、大正14年1月場所だからである。
- 19 『大相撲人物大事典』（平成13年）の「行司の代々―歴代行司名一覧」（p.695）でも錦之助はこの場所で幕内（本稿の朱房・足袋）に昇格している。
- 20 鶴之助と錦之助の朱房昇格に関し、新聞記事と雑誌記事が異なっているが、その理由は不明である。一旦昇進させたが、のちに降格させたなら、その原因を調べる必要がある。いずれにしても、今後、新聞記事が正しく、逆に雑誌記事が間違っていることが判明したら、鶴之助と錦之助の朱房昇格年月に関しては修正があるかもしれない。
- 21 『大相撲春場所』（昭和16年1月、サンデー毎日編輯）の「行司紹介」（p.65）では、喜三郎（のちの要人、8代与太夫）は大正4年5月に紅白房へ昇格したとあるが、これは正しくない。この「行司紹介（p.65）」ではまた、特に昭和2年春場所で降格された行司の昇格年月が考慮されていない。
- 22 昭和2年春場所の合併相撲では、大正15年5月、紅白房だった行司が青白房へ降格したものが何人かいる。善之輔もその1人だった。中村倭夫著『信濃力士伝』では大正時代の紅白房昇格が考慮されていない。
- 23 この雑誌『春場所相撲号』は大正10年5月に発行されているが、内容はおそらく春場所（1月）に基づいているはずだ。大正10年春場所の上位行司を知るのに大いに参考になる。
- 24 鶴之助と錦之助が番付表の二段目に初めて記載されたのは10年5月だが、星取表では最下段の左端に記載されている行司は鶴之助より一枚上の左門である。番付表の二段目に鶴之助と錦之助も記載されていることから、左門と同じ朱房かもしれないと思った。しかし、傘型表記では異なる房色の行司でも記載されることがあるし、式守与太夫・他筆「行司さん物語―紫総になる迄」（『相撲』、T10.5, p.105）にも左門までが朱房であることから、鶴之助と錦之助はやはり紅白房に違いないと判断した。
- 25 庄之助（17代）が差し違いの責任を取り、その日に辞職したことは、『角力雑誌』（T10.6）の小島小洲生筆「潔く辞職した立行司庄之助―わが身よりも行司名が大切」（pp.9-11）に書いてある。
- 26 番付表を見る限り、二段目の庄三郎と瀬平は同じ字の太さで記載されている。地位が同じということを意味している。そういう理解で順序付けをしてある。これが正しくなければ、二段目の順序付けにも問題がある。このことを指摘しておきたい。
- 27 昭和2年以降、准立行司の半々紫白と式守伊之助の（真）紫白房は、規定上、「紫白房」と呼ばれていた。実際の運営では両者の房色には違いがあったのである。大正期にも規定上、「紫白房」と呼ぶことに決まっていたのかは不明である。半々紫白房

も常に「紫白房」と呼んでいることから、房色の違いを指摘するのはなかったようだ。実際、昭和になるまで、准立行司と式守伊之助の房色の違いを記述した文献を見たことがない。

- 28 拙著『大相撲の行司と階級色』の第4章「課題の探求再訪」では、与之吉の朱房昇格が大正11年1月場所としている（pp. 173-9）。番付表は傘型表記なので、朱房行司と紅白房行司の区別がはっきりしない。見方によっては必ずしも11年1月ではなく、5月場所とすることもできる。大正11年1月の星取表では二段目に記載されている。この場所で朱房に昇進したものと捉えることにした。
- 29 『大相撲春場所号』（昭和16年1月、サンデー毎日編輯）の「行司紹介」（p. 65）で、玉治郎はこの場所、紅白房に昇格している。この年月は正しくない。この年月のミスは、もしかすると、朱房に草履を履いた行司とそうでない行司がいたことを認識していなかったことで、生じたのかもしれない。他の行司でも、朱房と紅白房による混乱があるからである。
- 30 『相撲の史跡（3）』（p. 20）でどの資料に基づいて記してあるかがわかれば、朱房への昇格が1月場所なのか、5月場所なのかは容易に判明する。当時の新聞記事を調べてみたが、啓治郎の房色変更に関する記事を見つけれなかった。見落としているかもしれない。
- 31 『大相撲』（昭和53年8月）の泉林八談「22代庄之助一代記（6）」（p. 138）によると、左門は「大正13年春場所には、行司を辞めて立田川を襲名している」とあるが、その年月は記憶違いによるミスである。
- 32 『大相撲春場所号』（昭和16年1月、サンデー毎日編輯）の「行司紹介」（p. 65）では、今朝三は先場所（11年5月）、青白房に昇格している。これは一場所の違いで、青白房をいつ許されたかによるものとみなしてよい。場所の前後か場所中かによって、使用開始日が異なるからである。
- 33 与之吉が本来なら左端に記載されるのに、右端に記載されている。その理由はわからない。
- 34 相撲史跡研究会編・発行『相撲の史跡（3）』（昭和55年，p. 72）によると、瀬平は3月に亡くなっている。いずれが正しいかは、まだ確認していない。
- 35 玉治郎と誠道が春場所初日から朱房を許されていたとしても、その許可は番付には反映されていない。林之助が朱房のドン尻につけ出され、玉治郎は紅白・幕内の筆頭だったからである。これは22代木村庄之助著『行司と呼出し』（p. 49）でも確認できる。玉治郎と誠道が春場所初日から、林之助と同じ朱房だったとすると、玉治郎を紅白・幕内の筆頭だったと語るのは不自然である。実際、『大相撲』（昭和54年3月）の泉林八談「22代庄之助一代記（9）」（p. 148）では玉治郎を一階級低い「十両の筆頭」だったと語っている。
- 36 大正末期、朱房行司を「三役」と呼んでいたかどうかははっきりしない。『大相撲』（昭和54年3月）の泉林八談「22代庄之助一代記（9）」（p. 148）では「幕内」と呼

んでいる。

- 37 政治郎は春場所後に辞職した。『大相撲』（昭和54年3月）の泉林八談「22代庄之助一代記（9）」（pp.146-8）を参照。
- 38 これに関しては、たとえば拙著『大相撲行司の格付けと役相撲の並び方』（2023）の第8章「准立行司と半々紫白房」にも詳しく扱っている。
- 39 朱房になると、当時、「三役」とも呼ばれていたのかははっきりしない。階級としては「幕内」だったからである。『相撲の史跡（3）』（昭和55年，p.151）でも、「三役」に昇格したとしている。少なくとも草履を履いた朱房行司ではなかった。大正末期の「三役」に関しては、たとえば拙著『大相撲行司の格付けと役相撲の並び方』（2023）の第8章「准立行司と半々紫白房」にも詳しく扱っている。
- 40 この入間川（元・源太郎，宋四郎，年寄春日野）については、『夏場所相撲号』（昭和6年1月）の三木愛花筆「古今近代の立行司」（pp.101-3）に短評がある。
- 41 鶴之助は東西合併前に辞職した。『大相撲』（昭和54年3月）の泉林八談「22代庄之助一代記（9）」（pp.146-8）を参照。

参考文献

※雑誌や新聞等は本文の中で詳しく記してあるので、ここでは省略する。

金指基，『相撲大事典』，現代書館，2002（平成14年）。

木村庄之助（20代，松翁），『国技勸進相撲』，言霊書房，1942（昭和17年）。

木村庄之助（21代），『ハッケヨイ人生』，帝都日日新聞社，1966（昭和41年）。

木村庄之助（22代）・前原太郎（呼出し），『行司と呼出し』，ベースボール・マガジン社，1957（昭和32年）。

小泉葵南，『お相撲さん物語』，泰山書房，1917（大正6年）。

式守伊之助（19代，高橋金太郎），『軍配六十年』，1961（昭和36年）。

『相撲』編集部，『大相撲人物大事典』，ベースボール・マガジン社，2001（平成13年）。

竹森章（編），『相撲の史跡』，相撲史跡研究会，1973（昭和48年）～1993（平成5年）。

竹森章，『京都・滋賀の相撲』，発行者・竹森章，1996（平成8年）。

中英夫，『武州の力士』，埼玉新聞社，1976（昭和51年）。

中村俊夫，『信濃力士伝』（昭和前篇），甲陽書房，1988（昭和63年）。

鳴戸政治，『大正時代の大相撲』，国民体力協会，1940（昭和15年）。

根間弘海，『大相撲行司の世界』，吉川弘文館，2011（平成23年）。

根間弘海，『詳しくなる大相撲』，専修大学出版局，2020（令和2年）。

根間弘海，『大相撲立行司の格付けと役相撲の並び方』，専修大学出版局，2023（令和5年）。

山田野理夫，『相撲』，ダヴィッド社，1960（昭和35年）。

Simmons, Doreen & Nema, Hiromi, Japaese Sumo : Q & A, 専修大学出版局，2022（令和4年）。